



## 人生100年時代を生きる子どもたちのために

園長 本多 郁代

社会の急速なデジタル化を始め、私たちを取り巻く環境は変化のスピードを加速させながら進んでいます。人生100年時代ということも近年頻繁に言われるようになりましたし、これからの仕事は「意思決定」と「作業」に分解され、このうち「作業」に関しては、相当部分がAIに取って代わられるとも言われています。そうなれば当然、人々の働く期間は長くなり、一つの会社で退職まで働くというよりは、何回か仕事を変えながら働き続ける時代がやってくることも予想されます。

そのような時代を生きる子どもたちに、どのような力が必要だと皆様はお考えですか？

困難や変化に直面しても何とか乗り越え、自分で道を切り開いていく力がとても大切なのではないかと、私は考えます。そのためには、まず、「やればできる」「もっと～したい」などの「学びに向かう力、人間性等」を育みながら、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」を育てることが重要と考えます。当園では、今年も全職員で様々な活動場面において、子どもたちの学びの芽を育ててまいります。

3学期、新しいお友達が3名増え当園の園児数は25名。年少（満3歳を含む）10名、年中10名、年長5名と各学年の人数がとても分かりやすいこと、そして、子どもにとって自園の人数を知ることは、数を数える意欲にもつながることを踏まえ、始業式で数に親しむ場を設定しました。

「お友達は全部で何人でしょう」と問うと、興味津々。その中で、年長の複数の子どもたちが25人と答えました。そこで、さらに「25人になることをこの●を使って分かりやすくお話しできる人はいますか」と問うと、ある子どもが「この列（一列目）で10人、この列（二列目）で20人、ここ（三列目）に5あるから25人」と、見事に10のまとまりを意識した説明をしてくれたのでした。

「あっぱれ！👏」

「あこがれる～👏」



ひよこ組では、年少児と満3歳児が一緒に部屋で生活しています。このよさを生かしながら、お部屋の一部を棚で仕切り、それぞれの学年に合わせた遊びを保障しつつ、子どもたちが自由に行き来できる環境を整えています。そのため、遊びの中身に応じて集う友達も変化し、それぞれが程よい刺激を受けながら、遊びを楽しんでいます。「これ、やってみたい！😊😊」

